

「市政に興味・関心を持つてもらうためにはどうしたら良いか」

大塚委員（進行）、石田委員（発表）、

松崎委員、深谷委員、篠宮委員

原因：興味がない

- ・そもそも市に期待していない
- ・自分ごとではない
- ・若い人達の他人に関する関心の無さが露呈されている
- ・自分に直接関係がある事でないと興味が持たない
- ・自分に関係ないと思っている
- ・市がやることにワクワクしない
- ・自分の生活に影響がないから
- ・自分に、町に興味がない
- ・言葉を発しても届かない
- ・市の変化を実感できない
- ・自分の意見が反映される気がしない（無力感）
- ・誰かがやるだろう（他責）

・高齢者、貧困など、言いたいことがある人ほど、言う余地がない

原因：多忙

- ・時間がない
- ・皆、忙しい
- ・寝るだけの場所になっている
- ・目を向ける余裕なし
- ・まちにいる時間が短い
- ・自分に負担がかかると思うと声を上げられない

解決策：イベント

- ・定期的な市役所内覧会の開催
- ・点を線に（長い目で見られる…）
- ・世代をこえたつながり
- ・街づくり合コンの開催
- ・ここにいたくなるまちづくり
- ・魅力的なイベントを企画する
- ・民間と手を上手に組む

解決策：具体的な手法

- ・トピックス的な情報を年2回ポスティング
- ・輪番制で会議に参加してもらう
- ・過去の事例を示して、市民協働の成果を理解してもらう
- ・事例を挙げて自分事にしてもらう
- ・マイナスの問題点を挙げ、放置した場合の予想を周知
- ・2番目の個別案と関連付け、具体的に提案。身近な問題（老人、子ども関連）

解決策：SNSの活用

- ・双方向の仕組み
- ・SNSの活用により参加
- ・SNSを活用に長けた年代を取り込まなければ広がるのは難しい

原因：満足している

- ・他の地域（調布）が充実しているから満足
- ・ある意味、生活に満足している
- ・重大な問題が存在しない暖衣飽食の時代
- ・まあまあ満足しているからあえて言わなくても特別に困っていない

解決策：仕事としてメリットを

- ・仕事として依頼するべき
- ・参加によってサービス提供を受けられる
- ・イケてる市民団体にイベント依頼

原因：市民へのアクセス方法

- ・市からの情報が少ない
- ・広報こまえ見ない
- ・方法を知らない
- ・情報が少ない
- ・窓口がわからない

解決策：つながれば…

- ・人とつながるきっかけづくり
- ・実務能力を持った退職者をターゲットに（老齢化友人対策）
- ・他市との比較
- ・狹江市民として意識向上
- ・祭りなど市のイベントを増やす
- ・地域との繋がりを強くする

原因：人とのつながり

- ・問題点の知識がない
- ・知人・友人がいない
- ・積極的な性格でない
- ・個人主義の人が多い